２０１９．１２．１

関西四極会報

第２４号

令和２年度総会のお知らせ！

日　時　令和２年４月19日（日）
受　付　11：00　開　会　12：00
会　場　大阪ガーデンパレス
〒532－0004
大阪市淀川区西宮原１丁目3番35号
TEL（06）6396-6211

〈発行責任者〉大石　哲史　〈電話番号〉06-6349-9120
〈編集長〉辻　　次郎　〈ファックス〉06-6349-9121
〈発行所〉〒566－0045 摂津市南別府町 8-40
㈱カトー精工内
http://www.kansai-shiwasukai.club/

天文と私

副会長　和田　安生（大学二十四回）

私は子供の頃から天文に興味がありました。

そうは言っても、夜空の星をボーッと見たり、臨海学校で天の川を眺める程度でした。大学生の時に家庭教師の初バイト料で、初めて小型の天体望遠鏡を買ったくらいの〝ユルイ天文ファン〟といったところです。

転機が１９９８年に訪れました。住んでいる三田市で市立天文台ができるのを契機に、さんだ天文クラブが創設されたのです（①参照）。８名ほどの相当詳しいアマチュア天文家を中心に、市民に対しての天文啓発活動を行っています。

天文台で市民（主に小学生を含む家族連れ）に星の観察会や、天体望遠鏡工作講座や、天文学講座を開いています。私も順番で講師をしています。

星の観察会は当然ながら夜間にしますが、時には県立有馬富士公園等で、『太陽や昼間の星を見よう』のイベントを行います。②③の写真がその時の様子です。

もちろん普通に天体望遠鏡で太陽を見れば、一瞬で目が潰れてしまいます。そこで、さんだ天文クラブでは、特別な望遠鏡を何台か用意しています。特殊なフィルターを取り付けて太陽光を10万分の１以下に減光したり、プロミネンスが見えるようにしたりします。ほとんどの人は生まれて初めて望遠鏡で太陽を見たことになり、感動した様子です。

昼間の星を見るときは、コンピューター内蔵の自動制御で金星の方向に望遠鏡を向けます。そこで覗くと、アラ不思議、肉眼では青空しか見えないのに、望遠鏡では白い点がポツンと見えます。昼でも星が見える！と驚いている人もいました。

さて筆者は、自作の望遠鏡に白い板を取り付け、そこに太陽を投影します（④参照）。四角の白い板に映っている円盤が太陽です。直径10㎝ほどに拡大されています。これですと、周りから数人で同時に見ることができ、目が潰れる心配もありません。この円盤の中に、太陽黒点がゴマ粒のように見えることもありますが、ここ数年は太陽活動が低調な時期らしくて黒点は見えません。黒点が無くてただの白い円盤だと、これが本当に太陽なのかなかなか信用してもらえません（笑）。

今年は10月19、20日に、有馬富士公園フェスティバルがあり、様々な市民団体（野鳥の会、里山を守る会、合唱団、屋台等）が出店していました。さんだ天文クラブでは、20日にこのイベントをしました。フェスティバル全体で数千人の来場者ですが、そのうち数百人の方が望遠鏡を覗いてくれました。

こうして一般の方に喜んでもらえるような天文活動を20年来続けています。これからも体が動く限りは続けたいと思います。

②右側の青い帽子が筆者

①天文台のドームを外からのぞいた所

③各種望遠鏡

④筆者の望遠鏡

天王山縦走

鍵本　明
（大学十七回）

来年のＮＨＫ大河ドラマの主人公「明智光秀」ゆかりの天王山を訪ねました。

ＪＲ山崎駅改札口を出ると、すぐ目の前に俳人で連歌師でもあった山崎宗鑑が、隠居所として建立したと伝える妙喜庵があります。ここには、千利休が山崎合戦直後に建立した草庵風茶室の代表的な遺構の待庵（たいあん）（国宝）があります。ただ、ここを見学するには１ヶ月以上前に往復はがきで予約が必要なので、今回は前を通りすぎるだけにして天王山に向かいました。ＪＲの線路をこえるとすぐに急こう配の登山道を登ることになります。

約15分ほど黙々と歩くと、大黒天の大提灯と阿吽の仁王像が祀られている仁王門のある最初の目的地の宝積寺に着きます。境内には、秀吉が一夜で建てたといわれる三重塔、秀吉が腰掛けて天下統一を考えたと伝える出世石や禁門の変で尊王攘夷派の真木保臣らの十七烈士の墓碑など興味深いものがありました。ちょうど桜の時期だったので女性のグループや家族連れの方もたくさん参拝に来られていました。

更に山道を登ると「ひょうたん掛処」の看板とロープが張られた場所があり、実物の瓢箪やひょうたんの木型が多数掛けられています。秀吉が天下をとる契機となった勝負の聖地「天王山」との案内がありました。すぐそばには「山崎合戦之地の石碑」や合戦前日に秀吉の馬印が揚げられた「旗立松」があり、ここからは視界が開け木津川、宇治川、桂川の三川合流が眼下に広がっています。山崎は今でも約２００ｍしかない狭い平地に鉄道が３本、主要道２本が通る交通の要衝です。そこを見渡せる天王山の重要性を秀吉は光秀よりも速く気づいた結果なのでしょうか？

高さ１．８ｍ、幅５ｍの秀吉の道・陶板絵図（作：堺屋太一、画：岩井　弘）、「頼みの諸将来たらず」と「天下分け目の天王山」の２枚が設置されているのが目に入ります。光秀の誤算の１つ目は、秀吉の中国大返し、２つ目は筒井順慶や細川藤孝の支援がなかったことなどが、分かりやすい解説がされています。

続いて天王山十七士没後１５０年祭記念碑と共に十七烈士の墓が祀られています。

このあたりの山道には去年の台風21号のため大木が何本も倒れているのが見え、改めて台風の怖さを認識しました。

次の秀吉の道・陶板絵図は「明智光秀の最後」で光秀が信長に評価されたいきさつや竹槍で刺されて、その場で自刃することが書かれています。ここを過ぎて、酒解（さけとけ）神社の重文・神輿庫（鎌倉中期）や五間社流造の本殿も過ぎると、いよいよ頂上です。

秀吉は山崎合戦のあと、標高２７０．４ｍの天王山に山崎城を築きますが、大坂築城が本格化する２年後には破却されます。現在も天守台、曲輪、土塁、井戸などが残存するようですが、残念ながら確認はできませんでした。

頂上で４枚目の秀吉の道・陶板絵図「秀吉の「天下への道」はここからはじまった」を見て、奥の山展望台で昼食を取り、天王山ハイキングコースを下山することにしました。

途中、左　柳谷観音、右　小倉神社の標識を右にとって一気に麓の小倉神社におりました。

小倉神社は、昨年（２０１８）創建１３００年祭の神事が大規模改修を終えた本殿前で行われたということでした。境内には、樹齢６００年を超えるとされる神木のモミとスギが並び立ち、ハイカーが２本の木に登山の安全を願う姿も見られるようです。ちなみに下山した身ですが、パワースポットとしての２

重要文化財・三重塔
秀吉公が一夜で建てた

宝積寺（ほうしゃくじ）

十七烈士の墓碑

「ひょうたん掛処」の看板

「山崎合戦之地の石碑」

三川合流が眼下に

本の木に触ってきました。

天王山縦走は、無事に終了しましたが、最後の目的地は事前に予約していたサントリー京都ビール工場見学です。約1時間弱の工場見学の後ビールの試飲を3杯頂いて少し勢いをつけ、シャトルバスでJR長岡京駅に送ってもらい、いつものように近くの居酒屋に直行した次第です。

今回は、明智光秀をたどりたかったのですが、陶板絵図をはじめ案内板、旧跡は全て豊臣秀吉目線のものでした。NHK大河ドラマがどの様に光秀を主人公として描くのか興味がわくところです。

秀吉の道・陶板絵図

台風21号の痕跡

十七烈士の墓

酒解神社

天王山　山頂270.4m

小倉神社の御神木
モミとスギ

今では兼業農家を楽しんでいます!!

坊垣　巌

（大学三十九回）

平成3年に大学を卒業し銀行に入行。平成10年秋に関東から関西に戻ってきた直後に父親が他界したことで、実家の米作りを兼業でしなければならなくなりました。子供のころから手伝いはしていたものの、銀行に入ってからは一切しておりませんでしたから、わからないことばかりでしたし、銀行の仕事も30代前半でそれなりのポジションで仕事をしていたので、負担感ばかりで楽しさなんてものはなかったのを思い出します。

幸いにして、親戚が農家だったので力を借り、兼業農家を続けていました。丁度その頃に、TOKIOが『DASH村』という農業企画に挑戦している番組で刺激を受け、また親戚にいろいろ教えてもらううちに農作業を楽しむようになってきました。

例えば、草刈りは、年に3度ほど休日に早朝から夕刻まで（昼の熱い時間帯は外すこともありますが）ひたすら草刈りをします。目の前の草をひたすら刈ることが、いやなことを忘れる時間帯となり、ストレス発散にもなり大量の汗をかくので良い運動で減量にもなる時間となりました。出勤前、いつも一人で朝5時にくらいに田んぼを見て回っていますが、昨年大学の後輩から譲り受けたワンコ（『ソワ』といいますが）の散歩も兼ね見回りをするようになり、毎朝ちょこんと座って待っている姿に癒され、それもまた楽しみになりました。

今では、減反がなくなり8反5畝ほど米を作っています。ここ2，3年は休耕田や山際の荒れ地を耕し、食べたいと思った野菜を育てようと奮闘中です。昨年は、ヤーコンと栗南京など、今年はさらに増やしていちょう芋に挑戦。肥料も落ち葉や籾殻で堆肥作りを試みたりもしています。汗水流して育てた米や野菜を食べれる楽しさを味わうようになりました。

50歳を過ぎ平日と休日の仕事のギャップを楽しみながら、銀行員としてまた百姓としてのそれぞれの生活を同時に味わい第二の人生の準備をしています。

六本木回転ドア事故回想録

恩賀　幹雄（大学三回）
（元）オプテックス　ドア・センサ単一輸出総代理人
（元）ＰＬ法・情報公開法を活かす関西連絡会幹事

第１章
☆ＰＬ法裁判は提訴されず☆

２００４年月３月26日の六本木回転ドア死亡事故から15年余りが経つが、刑事裁判で、刑法「業務上過失致死罪」に問われた製造元三和タジマ元取締役被告、運営会社森ビル元部長被告ら合計３名に最高で「禁固１年２月、執行猶予３年」が言い渡された。現行の法制度では妥当であろう。然し乍ら、検察が事故の全体像を見誤り、「現場検証」などの初動ミスが、その後の民事ＰＬ法裁判＊註(1)を提訴し難い環境をもたらした。

＊註(1)　ＰＬ法裁判：日本では１９９５年に導入されたＰＬ（Product liability）法【製造物責任法】に関して、国民生活センターの集計によれば支払確定事故件数は、１９９５年度から２００８年度迄の13年間で年平均約９００件であり、詳細が公開された事故件数（判決・和解・不受理）は１２１件に過ぎない。他方、アメリカでの訴訟件数は１９６０年代で既に年間５０，０００件超、訴訟の評決額は２００８年で４億９０００万ドルとなっています。約１００万人の弁護士がいて競争が激しいため、自ら被害者に対し積極的に訴訟を促す弁護士もいる。

被害者遺族はＰＬ裁判を提訴できなかったが、加害者森ビルから遺族に７千万円余りの賠償金を支払うことで、示談が成立したと報じられ、その後の関係者の話では、森ビルは三和タジマから、３億円（重要文書の記載事項）を受け取ったとされるが、これは損害賠償金か何なのかは「示談」故に不明である。

第２章
☆事故主原因は回転ドア・センサ☆

検察による「現場検証」は国交省・経産省同行のもと、製造元の三和タジマと保守運営会社の森ビル両社の現場責任者を取り調べる形で事故当日行われたが、「事故発生時刻11時30分」に対し「現場検証は当日日没後」に行われたと報道された。そもそも、製造元三和タジマが自動回転ドアを設計した時点で、自動ドア業界＊註(2)の人であれば誰もが知りうる「安全運行の常識」関連情報を全面無視したことが事故の遠因である。

＊註(2)　自動回転ドアは自動ドアの一種で、全国自動ドア協会（ＪＡＤＡ）が該当業界である。当時既に協会員は13社（ナブテスコ、寺岡オートドアなど）に達し、ドア・センサのオプテックスは準会員であった。日本の自動ドア生産数量は世界一で、年間約１７０，０００台で、自動化率約95％と推定された。

人間の身体の部分で言えば、全体の司令塔と言える「脳」に情報を伝達する五感（目、鼻、口、耳および指先）を司る「センサ」はシステムの最重要部分である。複数のセンサ類から最も適合した種類を選び、自動回転ドア・システムに組込む設計作業は、ドア本体部分の設計よりも「安全」に関して遥かに重要である。

三和タジマの設計は

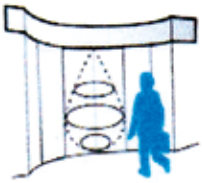
(1)検知人体の身長ＡＮＳＩ＊註(3)規格の60㎝をクリアーするか？

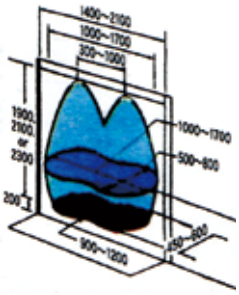
(2)検知エリアに「死角」がない外乱光遮蔽型＊註(4)であるか？

の２点を検証したい。

＊註(3)　アメリカではＡＮＳＩ（American National Security Institute）が１９８２年設立され、その安全規格では、「すべての自動ドア・センサは、小さな子供を擬した身長約60㎝の樫の木製の人形を検知しなければならない」と規定している。ＢＥＡ社（ベルギー）製レーダー・センサはＡＮＳＩ規格に合致しアメリカで多用された。

＊註(4)　外乱光に影響されないマイクロ波寄り「超音波静止検知センサ」が業界では当時既に入手出来た。専用設計の超音波センサは、環境照度に影響されず、床上10㎝高以上の人体・物体の動体・静止を検知する特性を持つ。無目下（約２．４ｍ高）から床上（約10㎝・20㎝・30㎝高）の円錐形エリアを３段階手動調整できる。（イラスト参照）





Ｂｏｏｎ Ｅｄｅｍ社（オランダ）は「自動回転ドア」と「自動円形スライド（観音開き）ドア」を生産したが、後者専用の静止検知超音波センサは既に日本からＢｏｏｎ社向けに18年前から輸出されたものである。

検証の結果は、三和タジマのセンサの設計は床上80㎝で、既に20㎝高すぎる。加えて、センサが「近赤外線反射量検知方式」のため、身長80㎝の子供の黒いふさふさした頭髪から設計通りの反射光線量は得られない。事故時の環境は、晴天の午前11時30分で「幽霊現象」を避けるため、森ビルの現場担当者は感度を下げ床上１．３５ｍ（天井より１．１５ｍ）にダイヤル調整したと語っている。「死角」は設計より55㎝、ＡＮＳＩより75㎝大きい。

第３章
☆消費者庁の活動領域を広げよう☆

混迷の中で「子供の責任を怠った親ＶＳ製造元三和タジマとの対決構図」を論じる識者がいたり、また国交省が「失敗論」の専門家とされる畑村洋太郎氏（工学院大学）に事故の技術分析を指示したり全く的外れな議論が多い。

今回の事故対応を「反面教師」とし、今後は国交省・経産省と相互連絡を取りつつ、消費者庁が「事故再発防止対策」の重要な一翼を担っていただきたい。

俳句は吾が日記

湯浅　喬（大学十一回）

リーマンショックの年に古希を迎え、長年勤務していた会社をリタイヤしました。

これを契機に以前からの懸案であった野山を思いきり歩きたいものだとの思いで居ました処、丁度私の友人が「大阪自然環境保全協会」の会員で自然環境保全の活動をしているとの情報を頂き、早速会員に登録をし、「自然環境市民大学」で昆虫・野鳥・植物等の観察を学びました。然し、残念ながら途中で胃癌が見つかり緊急に全摘の手術をしましたが、その入院中に中西進氏の「ひらがなを読めばわかるに日本語」と言う本を手にしました。その後令和の名付け親と言われた先生とわかり驚きましたが、この本の中に芥川龍之介が自殺する直前に「水洟や鼻の先だけ暮れ残る」という俳句を残し、医者に渡してくれと言って自殺した情景が描かれています。予てから日記は煩わしいから他のもので生きた証をとの考えにぴったり合い、俳句に取り組もうと思いました。幸い住んでいるマンションに俳句の先生がおられ相談した処快く受けて頂きました。何しろ俳句の何かも知らない者が集まり、「しぎの俳句の会」を立ち上げました。メンバーは約十名と先生の小さなグループで立ち上げ、毎月一回の句会を通じ俳句を学んでいます。私たちの句会は毎回兼題を出し四首の俳句を投稿し、互選で当日の優秀作品を発表します。最優秀者は次回の座長となります。選句を終わりますと参加したメンバーが自分の選句した句の評価をし、それぞれの作者の説明があります。これが終わると先生が今回の句評をします。引き続き俳句の知識や有名な俳句の作品の背景や解釈を教えてもらいます。中々思うようにいきませんが、手元には広辞苑・漢和辞典・古語辞典・歳時記等を置き、いつも紐解いてボケ防止と俳句作りに励んでいます。

しぎの句会風景

今回紙面をお借りして日記代わりの愚作を披露します。

文開き香をかぎたき日永かな
喜寿となり仏の顔も春のかほ
三回忌母なき庭に夏茜
なつかしや土の香残す
　零余子めし
暑き夜は漏刻となり時はかる
冬の夜は欣求浄土の褥あり
遍路道傘濡らしゆく宿いずこ
碩徳の文字を確かむ夜長かな

この紙面をお借りしまして先日亡くなられた田代君を偲んで俳句を捧げます。

「四極の風」世話役・田代君を偲んで

流れ橋てふがふはりと
　舞い上がり
「木津川・流れ橋にて」

秋しぐれ幽かにゆれる摩崖仏
「笠置山摩崖仏跡にて」

足もとの真紅のもみじ
　そっと踏み
「粟生光明寺にて」

花筏くだけて奔りてふとなる
「大和郡山にて」

集い来て友を偲ぶや萩の花
「梨の木神社・田代君を偲んで」

光明寺のもみじ

田代友二郎君（左）と筆者（右）

笠置山・摩崖仏

木津川・流れ橋

「高原・温泉・そして海」

吉村　鉄太郎（大学二十一回）

上野丘で受験し、旦野原で4年間過ごした第1期生である。その年は、安田講堂事件があり、東大の入試は中止となった。鳥取出身の私は京都大学で分大を受験する予定であったが、全国的な混乱の中、京都での試験は取り止めとなり、急遽初の九州旅となった。

入学後も、校内封鎖で3か月間講義はなく、ヨット部に入部した私は連日坂ノ市の海洋会館で合宿、ニュースで学校の動向を知る日々が続いた。

ゼミでは、山本雅之先生にお世話になった。金融資本論という小文字の詰まった薄い岩波文庫本をテキストに、利子生み資本という概念を教えられた。竹屋先生には、民法以上にヨット部の立場でお会いし大変お世話になった。両先生のご冥福を改めてお祈りしたい。

瀬戸内海東端（大阪湾から四国を遠望）

ヨット部の話をすると尽きないが、博多百道や志賀島から鹿児島平川まで九州水域を毎年よくぞ動き回ったものである。広島や彦根へも遠征した。年365日のうち、120日は海上生活者であった。インカレでは、全国トップレベルの福大、九大を相手に、分大艇3艇で上位を独占したこともある。時には、嵐の中、海上保安庁のお世話にもなった。

海、そして風という自然の摂理を体得し、技量と人の和を学んだ経験は貴重であった。

当時艇庫があった西大分警察署跡
（海に出る石段は今も健在）

卒業の前、大分駅前のある電気店でバイトをさせていただいた。トラックに家電品を満載し、山間部の集落を1日がかりで訪問して路上で販売、面白いように売り切れる。8時だよ全員集合、1億総中流と言われた、そんなほっこりした時代であった。その後の冷戦構造の崩壊で、世界経済の大転換が起こるとは、その頃は想像すら出来なかった。

卒業後は電機業界に職を奉じた。若き日は、アメリカからの技術導入、中盤は、中国や東南アジアへの技術移転、そして後半では、グローバル同時競争の仕事となった。

さて、日本経済の立ち位置を俯瞰すると、少子高齢化、1極集中、AI、高度空間利用、気候変動、先鋭国の宇宙覇権、情報価値覇権、グローバルに何が起こってもおかしくない情勢にある。

我々の置かれた環境は、生活環境も、働く概念も、上野丘の時代から、そして旦野原世代だけ見ても、変化をし、一様ではない。

しかし、潮目や風向きは変化するもの、人類の英知も業もその自然の摂理の中にある。

高原、温泉、そして海。我々四極会員は、アジサバかれいの故郷、大分の豊かさ素晴らしさを知る。四極山は、いつの時代もそこに座し、我われ会員を温かく見守る。未来の新入会員含め、高商初代からの全員がそんな大分の良さを知る、そんな仲間たちではなかろうか。

瀬戸内海西端（別府湾でOB戦）

最後に、ヨット競技のだいご味について、ご紹介したい。

ヨットレースはスピードレース。

競技は、船種ごとに1大学3艇出場し、20数艇程度でゴール到着の順位を争う。

3艇の順位を合計した数値がその大学の持ち点となり、点数の少ない大学が優勝となる。

レース海域では、海上に審判団の本船を置き、そのマストから風上に対して直角90度に設置されたスタートマークを目視した海面上の想定ラインをスタートラインとする。

そこから、風上の目標マークを回り、サイドと風下のマークを回り、また、風上マークを回り、最後の風下マークを回って、スタートラインを風下側から横切るとゴールである。

スタート時刻が告げられると、その10分前あたりから、有利な位置取りの小競り合いが始まる。秒読みが始まると、最速でスタートラインをきれるように各艇ともアクセル（エンジンはないので帆）を全開に上げる。スタートダッシュが重要なので、気は抜けない。

同時一斉にスタートした艇は、風上に設置された上マークを目指す。ヨットは、直接風上には進めないので、目標に向かって右もしくは左45度程度（腕が良ければより鋭角）の角度を保ち、何回か方向転換しながら、目標の上マークをめざす。

この時、風を読む力が試される。左右どちらの風が強いか、

潮の流れはどう考慮するか、風がどちらに振れるか、これらを遠い海面の波や色合い、雲の流れ、工場の煙などを見て、意思決定して航路を決める。

例えば、他の条件が同一で、風の吹く方向が現在より右よりに振れてくると、先に右方向に進んでいる艇が、目的地までの走行距離を短くでき早く到達できる。（図1参照）逆に左よりに風が振れると、先に左に進んでいる艇が有利となる。従って風の読みは順位に大きく影響する。（逆逆に判断すると、永遠に風上に到達できない。）

風の条件が全く同一な場合でも、艇速は、操船スキル（艇の傾きや舵の切り方等）や、戦術タクティクス（風をブロックする等）でかなりの差がつく。日頃の練習が大切になる。

また、海上では航行法規が適用される。違反や航路妨害があれば、抗議旗をマストにあげその意思を示し、レース終了後、費用を払い訴状で提訴する。審判で負けると費用没収や失格となる。

従って、日頃の練習では、筋力強化や帆走技術だけでなく、シート（ロープ）、セール（帆）、FRP船体補修、塗装等の大工仕事や、国際航行法規と判例の法的勉強が欠かせない。

他にも、練習時の母船の操船技術、安全な廻航、インカレ海域への艇輸送のトラック運転など、体育会系というよりも実業界系?か。

そして最も重要になるのが、レース海域の地形の理解、レース前夜の天候予測、選手体重や装備を含めた当日の風に対するフィッティング最適マネジメントであり、勝つためには必須となる。

さて、来年は、東京オリンピック。

470級（全長4m70cm艇）での日本チーム（吉田吉岡コンビ）の金メダルが期待されている。江の島沖で行われるレース、太平洋を一望にする観光名所であり、加山雄三かサザンでも聞きながら皆さま是非現地で、日の丸掲揚をご視察ください。

また、九州帰省の折には、別府北浜のトキワ前で練習や試合をしている、艇に大分大と表示した現役に、ご声援を頂けると嬉しいです。

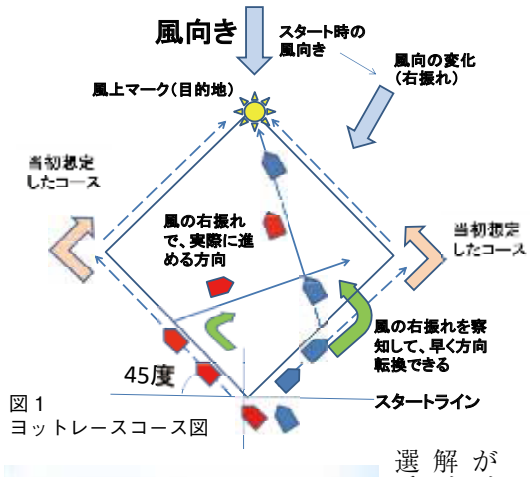


図1
ヨットレースコース図

別府北浜の活動拠点（後ろは四極山）

四国お遍路ラン
～修行の道から菩提の道へ～

今仁　正義（大学二十二回）

二〇一五年に山形県の長井マラソンを完走して四十七都道府県フルマラソンの旅を終える予定だった。その後の新たな目標をどうしようかと思っていた時に所属していたランニングクラブ「明走会」で四国お遍路ランの呼びかけがあった。参加したのは七名だった（弘法大師を入れれば八名）。第一回目として一番札所霊山寺から十八番札所恩山寺まで八十四kmを三日間でいっしょに走った（歩いた）が、その後は各自で出かけることになった。

十月十七日（木）晴れ

あべのハルカス前から夜行バスに乗って三原分岐バス停に予定より二十分ほど早く午前七時に着いた。バス停から土佐くろしお鉄道の最寄り駅平田までは数百mだが今回のスタート地点は昨年中断した隣の工業団地駅である。延光寺とは逆方向に2kmのところである。通学時間帯なので小学生が次々に挨拶して来る。3kmほど走って、三十九番札所延光寺の山門が見えた。本堂、大師堂に般若心経をあげた後、納経帳に御朱印を押してもらう。これで長かった高知県の札所が終わったという達成感となぜか寂しさが湧いてきた。お参りの人は数人で、歩き遍路はいなかった。

右下が筆者

延光寺

この日の走行予定距離は60kmだがここまで予定より三十分早くなっていた。次の四十番札所観自在寺までは27kmである。昨年の十二月に亡くなった、同期で入社して以来の友人は松山生まれで愛媛大学出身だった。県境のトンネルに入る前思わず手を合わせた。

昼を過ぎて暑くなった。自販機に出会うたびに炭酸飲料を買うようになった。お遍路道はときどき国道から分かれて旧道沿いの住宅街に入る。街道を思わせる造りの家々もあり眺めてい

て退屈しない。何度も検討して不要なものの順に削ってようやく重さ五kgにしたリュックだが汗がついて、さらに重くなった。観自在寺にも予定より三十分早く着いた。

観自在寺

ここからこの日の宿までは30kmである。時速5kmで歩いても二十時までには充分たどり着くはずだ。まだ最終バスまで五本もあった。道は海岸沿いになり幾つかの島が見えてきた。集落と集落の間は峠があって、けっこうアップダウンがある。漁師町の屋根を下に見る景色は何となく好きである。金木犀の匂いが下から香って来た。

チェックインを十八時にしていたがこれはさすがに間に合わない。柏トンネルを抜けたところで念のため宿に電話した。すると宿の主人は十九時までに着かないと風呂は入れないし、二十時を過ぎると鍵がかかり、電話にも出ないと言う。旅行約款に書いてあるとつれない返事だった。残り15kmだが、道に迷ったりしたら十九時着はかなり厳しい。しかも食事もできない可能性がある。考えた結果、大浜というバス停でこの日のリタイアを決めた。逆打ちのお遍路YOUがニヤリと笑って通り過ぎた。

漁師町

岩松出張所というバス停の前にその宿はあった。まだ十八時前だった。宿の主は意外に親切だった。スーパーの場所、洗濯機は無料だが乾燥機は百円であること、その他をいっきに説明してくれた。買い物から帰ったら風呂が沸いていた。風呂に入り、洗濯して一杯飲んで長い一日が終わった。

今後も足が動くかぎりゴールの高野山を目指したい。その様子はブログ「知らない道を走ってみたい」に綴って行く予定である。

フレット来夢・有志（マンドリンクラブ関西OB）台湾旅行記

関西四極会でマンドリン演奏を行う『フレット来夢』のメンバー4名で、5月下旬，台湾旅行に行ってきました。私は現役時代、総合商社に勤務しながら今回初の海外旅行となり期待に胸を膨らませながら関西国際空港へと向かいました。予定通り9時に全員集合。

私以外は海外経験も豊富でありいろいろ教わりながら出国手続きを終え機内へ。約2時間のフライトで台北（桃園）空港に到着、入国審査も無事終え現地ガイドの案内で早速市内観光にスタート。大型バスに観光客17名で楽々である。

初日はまず龍山寺＝市内最古の寺院で本尊は観世音菩薩であるが道教や儒教など様々な宗教と習合しており大小百以上の神が祀られている台湾最強とも言われるパワースポット。おみくじは神様にお伺いを立ててOKが無ければ入手できずハードルがなかなか高い。今回入手できたのは2名で確率は5割であった。私のおみくじは大吉、上々のスタートである。

屋根の鳳凰が美しい龍山寺

続いて忠烈祠＝中華民国建国および革命、中国大陸での日中戦争などにおいて戦没した英霊を祀る祠で陸・海・空軍から選抜された衛兵たちの一糸乱れぬ交代式は見事である。

次は中正記念堂へ移動。ここは蔣介石（本名＝中正）を記念して建てられたもので敷地面積25万平米、オペラハウスやコンサートホールなども有りとにかく広い。丁度腹も減ったところで夕食の台湾料理に舌鼓をうち食後は台北最大の士林夜市へと向かう。いろいろな店が並ぶが慣れない食べ物は腹を壊し易いとの事で要注意。

忠烈祠の衛兵交代式

蔣介石を讃えた中正記念堂

2日目はまずショッピングからスタートだ。民芸品店で北投石（ラジウム鉱石）の説明を受ける。難病を治し老化防止・健康促進に効果大との事で心当りのある人は迷う事無くこの石で作られたブレスレットを購入。効果を期待したい。また煙草は日本のほぼ半額と安い。喫煙者の方は吸いすぎにくれぐれもご注意を！

買い物の後は故宮博物院＝中国歴代皇帝らによって収集された歴史的文化財70万点弱を保存し世界四大博物館の一つに名を連ねる。今回、ヒスイ色が美しい故宮の代表的宝物「翠玉白菜」と豚の角煮にそっくりな「肉形石」を見ることができたのは幸運である。おみくじのお告げは当たっている。

続いて台湾最北端近くの奇岩

で有名な野柳地質公園からレトロさを感じる十分に向かい、ビニール製熱気球の赤色のランタン（天燈）に願いを書いて鉄道線路から飛ばす。皆さんの願いが叶いますように！

さらにアニメ「千と千尋の神隠し」を彷彿させる九份に移動。さすが人気のスポットだけあって人が多い。ここではスペインからの観光客に出合い当「フレット来夢」のギタリストがスペイン語で道案内，私以外のマンドリニスト二人も中国語・韓国語に堪能で皆さん多才である。

台湾観光人気ナンバーワンの九份

当日は結構歩いたのでホテルに戻るや全員で足裏マッサージへ直行、疲れを癒す。寄る年波のせいか、指圧ではあちらこちらから「痛い、痛い」の声が…。翌日はいよいよ最終日、若干余裕があったのでゆっくりとくつろいだ後、行天宮へと向かう。ここは三国志で有名な「関羽」が祀られており台湾一の人気の寺との事で多くの現地の人が合掌で祝詞をあげている。

この後、台北101ショッピングモールを自由散策し、昼食後空港へ向かい帰国の途につく。

家庭平和を願って
ランタンを飛ばす

今回初の海外旅行であったが、朝、出発前にホテルの周りを散策、独特の雰囲気・生活臭を肌で感じると共にこの地に暮らす人々に思いを馳せ、また日本なりの良さも再認識すると共に夜は夜でホテルの一室に集まり酒を酌み交わしながら仲間と人生について語りあう等非常に有意義な時間であった。

また当地は雨が多いと聞いていたが皆さんの日頃の行いの良さか天候にも恵まれ快適な旅となった。

今回十年のパスポートも取得した事だし、これを機に次回は何処へ？

（執筆）
経済学部22回生　坂本　温
＊台湾旅行参加メンバー
団長　経済学部21回生　甲斐　誠三
経済学部22回生　藤野　敬三
教育学部卒　坪井千恵子

クラブだより

創部100周年に向けた「大分大学硬式庭球部」の歩み

井上　龍生（大学二十二回）

1922（大正11）年に日本で8番目の官立高等学校として大分高等商業学校（大分高商）が開校し、その当時から我が硬式庭球部が創部されました。1944（昭和19）年からの大分経済専門学校（大分経専）、1949（昭和24）年には戦後の学制改革により大分大学経済学部へと変遷。キャンパスも上野丘から1969年（昭和44年）に今の旦野原に移転し、テニスコートも6面と充実してきました。2022年には経済学部の「創立100周年」と時を同じく「硬式庭球部創部100周年」を迎えます。創部当初は九州ランキングにも名を連ねた先輩たちの活躍した記録も残されていますが、昭和30年代半ばには廃部の危機もありました。1964年（昭和39年）に着任した御手洗先生（1990年3月のご定年退官まで26年間「部長」）の存在なしには現在のOB会組織の維持・発展は無かったと言えます。1973年前後にOBによる「後援会組織」が整備され、毎年5月（連休）に大学（旦野原）で2日間のOB戦が開催され、「支部対抗OB戦全国大会」も関東・関西・九州で複数回開催してきました。関東・名古屋・関西・福岡・熊本・大分に支部組織があり、各支部で活発な活動（テニス・ゴルフ・懇親会等）を現在も継続的に展開しています。私ども関西支部は年4回（4月：京都、7月：尼崎、10月：米原で宿泊合宿、1月：尼崎）を定例行事として開催（コートは全て室内）。10月の宿泊合宿は、2014年から名古屋（豊田市内）で隔年開催し、関東・名古屋・関西の各支部から30名前後が集結し、テニスと懇親会を賑やかに開催しております。尚、「御手洗先生を偲ぶ会（2019年3月9日に大分：トキハ会館）」の詳細は「四極会会報（2019年4月発行）」に掲載しています。

①御手洗先生を偲ぶ会（2019年3月）

②名古屋宿泊合宿（2018年10月）

弓道部ＯＢ会

進来　英治（大学二十三回）

弓道部ＯＢ会は発足当初より毎年９月に旦野原キャンパスでＯＢ総会、ＯＢ射会を開催してきました。４年前に弓道部ＯＢ会発足40周年記念総会が現役も含め約１００名で大分市内で盛大に開催され、これを機に組織体制を強化するため本部、関西支部、東京支部の３本支部体制となりました。

我が関西支部は大学17回生～24回生を中心に10数名ながら年に数回集まり親交を深めています。関西四極会総会後に梅田に集合し定期支部総会を開催しています（男子寮生活が縁で大石関西四極会長も参加頂いております）。それぞれの近況や学生時代の思い出、弓道部仲間の情報に花を咲かせた後、弓道部ＯＢの同朋に電話をしまくることが慣例化しています。同朋にとりましては誠に迷惑な話でありますが電話がないと何かあったのではと心配するようです。

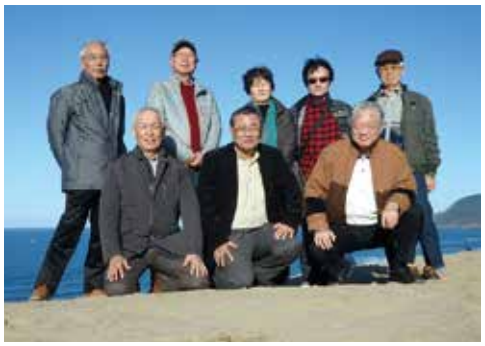
３年前より「遠征」と称して鳥取遠征（カニ）、博多遠征（クエ）を開催してきましたが、遠征先でＯＢ会長や他支部のＯＢも合流し季節の食を堪能しながら親交を深めています。「遠征」は関西支部の恒例行事となっており、今年からは更に「暑気払い」も追加されました。

昭和40年代の弓道部は体育会系でありながら文化系ではないかと勘違いしそうなサークルで、男女部員がいることもあり家庭的な雰囲気がありました。パチンコ麻雀囲碁将棋が得意な部員が多く、日誌や部誌で文才を発揮する部員も多数見受けられました。

ＯＢ会の目的は会員相互の親睦もさることながら現役の弓道部員への経済的支援にあります。一時期部員数が減少しておりましたが近年増えておりますので尚一層の支援が必要です。今後の弓道部の活躍と発展を願って止みません。

来年はＯＢ会発足45周年が開催される予定です。大学卒業後も弓を続けているＯＢもいますし、今後は定年後に弓を再開するＯＢも増えていくのではと思います（筆者も昨年より再開）。

梅田にて（定期支部総会）



鳥取砂丘にて（鳥取遠征）

囲碁部活動報告

小川清一郎（大学十五回）

１　新春囲碁大会を１月26日に開催しました。

（於　せきとば　参加８名）

参加者は８名で上位３名が３勝１敗で並び、ルールにより優勝は加藤皓以さん（大11）、２位に古田智則さん（大22）３位に大村龍興さん（大11）となりました。

対局後は表彰式のあと中国料理を囲んで歓談、充実の１日でした。

入賞者除く参加者（敬称略）

菊池正男（大12）
橋口英久（大13）
村田良一（大15）
小川清一郎（大15）
和田安生（大24）

２　夏季囲碁大会を７月27日に開催しました。

（於　梅田囲碁センター　参加７名）

今回は鳥取から坂本直さんが久し振りに参加、７名が熱戦を繰り広げ、古田智則さん（大22）が優勝、２位　村田良一さん（大15）３位に坂本直さん（大17）が入賞しました。

対局後、がんこ寿司から差し入れの日本酒（一升瓶）を卓上に置いて楽しい反省会・懇親会となりました。遠路はるばる参加していただいた坂本さんに感謝!!

入賞者除く参加者（敬称略）

大村龍興（大11）
猿渡信正（大12）
和田安生（大24）
小川清一郎（大15）

３　関西四極会・瓊林会（長崎大同窓会）第６回囲碁交流戦

（於　中電倶楽部）

恒例となった交流戦も６回目を迎えました。今回は当初予定日からの変更や、健康上の理由ほか諸事情あって当会の参加者は４名、瓊林会６名の変則的な開催となりました。

対局結果は当会４勝、瓊林会８勝という結果でした。

参加者４名の方々には厚く御礼申し上げます。

参加者

加藤皓以（大11）
猿渡信正（大12）
坂本　直（大17）
和田安生（大24）

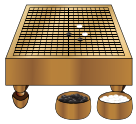
４　月例会

年４回予定していた例会は、参加者が減少しており、６月に１回だけ開催しました。今の状

況では指導碁をお願いできる状況になく、先生にも失礼と判断し休会としています。今後は、瓊林会との合同例会も視野に入れて検討していきます。

年々、囲碁同好仲間が減少しています。

加齢に伴い全ての能力が減退してきていることを実感する日々ですが。体力、気力そして脳力に合わせて囲碁を楽しむ会を今後とも続けていきたいと思う今日この頃です。



ゴルフ部 活動報告

第40回 懇親ゴルフ会

長谷川 浩二（大学十七回）

開催日　令和元年6月1日（土）
天候　快晴
場所　関西クラシックゴルフ倶楽部
参加者　18名（5組）
成績表

【成績】

氏名		清水	大洞	グロス	HDCP	NET
優勝	安部　亮一	45	40	85	13.2	71.8
2位	河野　博文	52	45	97	22.8	74.2
3位	大石　哲史	53	53	106	31.2	74.8
ベストグロス	安部　亮一	45	40	85		

梅雨入り前の快晴のゴルフ日和のもと、第40回の記念大会を開催した。

令和になり初めての会に、第22回以来久しぶりに参加の名手安部さんが往年の実力を発揮し見事ベスグロで優勝された。また今回、吉良（大33）・大脇（大34）2名の初参加があり若い力を発揮した。

表彰式終了後、7月に開催の第1回関西ゴルフ三経戦での奮闘を誓い合った。

参加者（敬称略）
大石会長、安部、小川、東方、鍵本、長谷川、米田、矢野、野中、泉、河野、辻、水野、宮本、松尾、後藤、吉良、大脇

第41回 懇親ゴルフ会

河野　博文（大学二十二回）
後藤　寛（大学二十七回）

開催日　令和元年11月15日（土）
天候　快晴
場所　関西クラシックゴルフ倶楽部
参加者　12名（3組）
成績表

【成績】

氏名		清水	大洞	グロス	HDCP	NET
優勝	水野　豊	51	45	96	24.0	72.0
2位	宮本　勝一	50	52	102	28.8	73.2
3位	福田　誠	46	49	95	21.6	73.4
ベストグロス	安部　亮一	48	46	94		

早い冬の訪れに寒さが心配されたが、幸い穏やかな秋晴れのもとで絶好のゴルフ日和の中でのプレーとなった。

直前に名手長谷川さんの出走取り消しがあり、12名の内7名が90台という大激戦の末、水野さんが見事優勝、2位は宮本さん、3位は福田さん、ベスグロは安部さんでした。

参加者（敬称略）
大石会長、安部、東方、鍵本、野中、河野、水野、福田、宮本、後藤、田崎、吉良

四極の風の会　活動報告

第四十四回散策会

紅葉と石仏の里

―当尾（とうの）散策行

利光征四郎（大学十一回）

令和元年の秋、「四極の風の会」散策会は、木津川市当尾（とうの）地区を歩いて古刹浄瑠璃寺に参拝、見頃の紅葉を観賞して、路傍の石仏にこころの安らぎを求めようと企画しました。（以下は簡潔な文でまとめました。）

十一月二十日十時過ぎにJR関西線加茂駅に集合。天気はやゝ曇りがち、風に冷気を感じながら出発し浄瑠璃寺を目指す（参加者八名）。町なかを外れて田園を南下、川を渡り山を越えて一時間半ほどで浄瑠璃寺に到着する。寺は人里離れた山中にありながら道路から参道に入ると土産物屋、茶屋もあり、多くの参拝者で賑わっている様子が窺われる。

このあたりは平安・鎌倉時代には仏教が盛んな土地。その後没落し今は僅かな古刹を残すのみとなっているが往時の仏教繁栄を偲ぶよすがとしては道端の石仏群がある。一帯は当尾（とうの）の里と呼ばれ、浄瑠璃寺は中心的な存在で平安時代の建立（一〇四七年）、文化財として国宝指定の仏像、建物を有し、また、紅葉の名所としても名高く十一月中旬から見頃を迎える。

入山して先ずは本堂の九体阿弥陀仏（国宝）を拝む。黄金に輝やいて並ぶ姿は圧巻。他に四天王像（国宝）、特別公開中の吉祥天女像など見所豊富。本堂を出て庭を散策する。苑池を隔てて色付いた紅葉の中に三重塔（国宝）の姿を望む。

拝観の後は門前近くにある茶屋の庭園を使わせてもらって昼食。真っ赤な紅葉の下で飲み食べ、且つ語り、楽しい時間を過ごす。

食後は別の道を選んで散在する石仏に心を癒されながら緩やかな下り坂を帰路につく。点在する農家の庭には柿の実が色付き、刈り取りが終わった棚田には稲木の列が並んで絵に描いたような田園風景を満喫。加茂駅には十六時過ぎに着いて解散。

当日の散策は、歩数は二万二千歩余、歩行距離はおよそ十二～三キロメートル、歩行三時間余（数字はいずれも往復に要したもの）。印象としては急な坂もなく、見所の多いコース。加茂駅から住宅地を抜けるまで道路が狭く注意が必要だが、歩道があり一列通行すれば安全な道。やがて広い道に出て快適な散策が期待できる。興味のある方は是非一度歩いてみては如何。

浄瑠璃寺　紅葉越しの本堂

浄瑠璃寺にて　背景は紅葉に包まれた三重塔

大門石仏群

たより

（順不同）

（平成三十一年二月～四月）

経専二十六回　細田　泰嗣

6月にはいよいよ90才。運転免許を返納することにしました!!

経専二十七回　川崎　和

ご盛会を祈念致します。

経専二十七回　河野　正道

元気に過していますが、外出は控えて居ります。運転免許は昨秋返納し不自由になりました。老人達のお世話とカラオケサークルに注力中です。

大学五回　古澤　淳司

退院後自宅療養中にて残念です。ご盛会をお祈りします。

大学八回　大橋　伸吉

盛会をお祈りします。

大学九回　木本　尚之

体調不良につき欠席とさせて頂きます。

大学九回　森　信孝

残念乍ら、今回参加できません。

大学十回　衛藤　慎吾

幹事役の皆さん、毎回お世話様です。大勢の出席者で賑やかな集まりになるよう期待しています。

大学十回　岡村　伸啓

盛会を祈ります。当方は至って健康で老人野球で頑張っております。

大学十回　高森　鳴実

幹事の皆様、お世話頂きご苦労様です。

大学十回　日野　武雄

腰痛で整骨院に通っています。四極会には杖をついて出席します。何かとよろしくお願いします。

大学十回　広畑　孝行

病気に負けずに仕事・カラオケ・散歩に頑張っています。

大学十回　吉田　吉則

卒業して57年が過ぎました。当時は学部は上野ヶ丘にあり、自宅通学で、大分駅の裏から歩いていた良い想い出です。

大学十一回　髙山　明之

病気療養中につき残念乍ら参加できません。

大学十一回　藤丸　靖夫

体調不良に付欠席させて頂きます。関西四極会のご盛会を祈念致してます。

大学十二回　安部　登

通院治療中です。御盛会をお祈りします。

大学十二回　岩崎　正義

当日ボランティアグループの活動予定日となっています。申し訳ありませんが欠席とさせて頂きます。

大学十二回　内山　博之

卒業から半世紀余り…。「耋寿」なる年令まで何とか達し乍らも思わぬ肉体の変調（腰痛）に悩んで一年…。外出の一歩に気合いを込める現状を打破したく思っている昨今です。

5月からの新時代に少しでも光明が見えることを願って頑張りたいです。皆様の健康と盛会を祈念しています。

大学十二回　菊池　正男

盛会を祈ります。

大学十二回　土屋　義方

予約があります。ご盛会をお祈りします。

大学十二回　原　尚

幹事殿、いつも大変お世話になります。都合により欠席させて頂きます。総会の盛隆をお祈り致します。

大学十二回　松田洋三郎

相にく、自治会（役員）の総会と重なり、欠席させて頂きます。未だ週4日の勤務、山歩き、ゴルフを楽しんでいます。

大学十二回　渡邊　敏信

平成31年度総会お目出度うございます。盛会をお祈りしております。私、体調の事もあり、集まりの出席を控えています。よろしくお願いします。

大学十三回　木ノ下憲二

体調十分でなく、残念乍ら欠席致します。四極会の発展と総会のご盛会をお祈り申し上げます。

大学十三回　柴垣　俊三

地域活動で多忙です。ご盛会を祈ります。

大学十三回　橋口　英久

関西四極会、囲碁部会員の皆様にご指導頂きつつ、楽しんで居ります。

大学十三回　松永　武義

57歳の頃、心臓弁膜症を煩い、入院手術したが、回復せず、転院して突然脳梗塞も発症し、今日に至って居り、完全回復してない状況です。恐縮乍ら創立100周年記念を迎えて居りますので、僅かですが、過日、寄付を致しました。但今も検査・投薬が続いて、生涯続く事になり、年齢も喜寿を越え、高齢を迎えてますので、四極会も退会をさせて頂きます。何等宜敷く皆様にお伝え願います。

大学十三回　溝口　繁雄

ご盛会を祈念致します。

大学十四回　古賀　裕敏

平成31年度関西四極会総会開催おめでとうございます。私は平成29年にガンと脊椎の手術をして、目下リハビリ中ですので総会出席は遠慮させていただきます。順調に回復していますので、次回位からの出席を期待しています。

大学十五回　東方　匡輔

総会を盛り上げる為にも老若男女、全員元気で、積極的に参加しましょう。

初参加の方も、大歓迎です。

大学十五回　東　賢次
誠に申し訳ないですが、今回、原爆被害者の総会（会計幹事）と重なり欠席します。盛会を祈念します。又１００周年記念の寄付の予定です。

大学十五回　小野　仁彦
今年も体調不良の為、失礼させて頂きます。

大学十六回　加藤　剛
体力の衰えを痛感させられていますが、散歩励行、元気維持、頑張り中。
先約の為、欠席します。

大学十七回　有馬　敏則
体調不良（下肢静脈瘤手術、脊柱管狭窄症等々）のため、今回は残念ながら欠席させて頂きます。ご盛会を祈っております。

大学十七回　安藤　清
昨年10月から健康太極拳の講師を引受けてしまいました。第1、3日曜日ＡＭが講座日で、今回出席できません。ご盛会をお祈りします。

大学十七回　坂本　直
鳥取に転居して5年半となりました。今年は山陰支部（島根県・鳥取県）の再興にチャレンジします。

大学十七回　田川　幸雄
体調思わしくなく、欠席させていただきます。盛会期待しています。小林さん、頑張ってね。

大学十七回　時枝　信康
昨年、（一社）北摂サッカー協会会長に就任し、県協会13人の役員の一人として微力を尽しています。

大学十七回　野村　建
2月より入院、退院の目途つかず、44年卒の同期の皆さんに宜しくお伝え下さい。

大学十七回　長谷川浩二
沢山の人の参加を希望します。久し振りに会える人を楽しみにしています。

大学十八回　髙橋　聰子
同期の矢野眞治さんから出席のお誘いをいただきましたが、どうしても総会当日の時間調整がつきません。悪しからずお伝え下さい。

大学十九回　大谷　眞二
久し振りに参加させていただきます。

大学十九回　三宮　秀行
今回初めて参加しますが、よろしくお願い致します。

大学二十回　阿部　修
毎年ご案内ありがとうございます。ここ数年地元の団地の自治会の役員をしており、毎年の自治会総会と重複する為、四極会総会へ参加できなく残念です。来年には役員も辞退予定ですので参加できると思います。

大学二十回　野瀬俊一郎
ご盛会をお祈り致します。

大学二十一回　井﨑　賢二
宜しくお願いします。

大学二十一回　野中　千尋
今回も、配偶者正子も参加させて頂くつもりです。

大学二十一回　山本　良一
仕事の関係で出席できません。

大学二十一回　吉村　鉄太郎
よろしくお願いします。

大学二十二回　泉　博二
事務局の皆様、お世話になります。今年も参加いたします。

大学二十二回　井上　龍生
今年も参加できず、申し訳ありません。盛会をご祈念申し上げます。

大学二十二回　大塚　哲生
入退院中です。

大学二十二回　河野　博文
今年も盛会になります様。特に若い人が多く参加して呉れる事を！

大学二十二回　藤野　敬三
マンドリン演奏で総会を盛り上げさせて頂きます。

大学二十三回　神本　信正
出席したかったのですが、当日所用が出来、止むなく欠席致します。残念ですが、来年は出席します。みなさまに宜しく。

大学二十三回　栗崎　実
総会の盛会を祈念致します。

大学二十三回　新西　文仁
今年も欠席させて頂きます。平野さん、メッセージ有りがとうございました。

大学二十六回　佐村　信哉
出席させていただきます。大石先輩によろしく御伝えください。

大学三十二回　渡辺龍司朗
今は三井住友建設㈱１００％出資会社ＳＭＣ商事㈱大阪支店に出向中です。

大学三十四回　今石　義人
大変残念ですが、当日は海外出張中のため、欠席させて頂きます。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

大学三十四回　増山　博道
来年度中の卒業を目標に修行しているため、出席出来ません。盛会をお祈り申し上げます。

大学三十八回　山田　泰浩
体調に因り、申し訳有りませんが欠席させて頂きます。

大学四十四回　山口　浩司　山口　朋子
当日は親族の結婚式参加の為、出席かないません。ご盛会をお祈り申し上げます。

大学五十七回　山内　彩
また機会があれば参加したいです!!

2019年度会費納入者名簿（敬称略）

令和元年11月30日現在

氏　名	卒業	氏　名	卒業	氏　名	卒業	氏　名	卒業
奈良定諄一	高 19	原　光伴	大 11	時枝　信康	大 17	宮本　勝一	大 23
松久　博	経 22	藤丸　靖夫	大 11	野村　建	大 17	小玉　稔	大 24
佐野　啓二	経 24	湯浅　喬	大 11	長谷川浩二	大 17	和田　安生	大 24
藤田　利男	経 24	安部　登	大 12	松尾　秀人	大 17	佐村　信哉	大 26
二宮　憲夫	経 26	阿部　浩	大 12	米田　民雄	大 17	松尾　信	大 26
細田　泰嗣	経 26	石川　尋海	大 12	渡辺　靖夫	大 17	水野　豊	大 26
川崎　和	経 27	岩崎　正義	大 12	髙橋　聰子	大 18	山田　安伸	大 26
河野　正道	経 27	内山　博之	大 12	羽矢　寧典	大 18	小俣　秀記	大 27
牛島　恒夫	大 1	菊池　正男	大 12	真部　誠司	大 18	後藤　寛	大 27
恩賀　幹雄	大 3	猿渡　信正	大 12	三谷　博	大 18	児玉　幸寿	大 28
嶋津　宣孝	大 4	武下　孝治	大 12	矢野　眞治	大 18	満見　毅	大 28
高橋　前	大 4	土屋　義方	大 12	大谷　眞二	大 19	小野　輝彦	大 29
小野　三夫	大 6	原　尚	大 12	三宮　秀行	大 19	町頭　禎之	大 29
児玉　一朗	大 6	松田洋三郎	大 12	真継　忠	大 19	河田　信雄	大 30
石尾　雄幸	大 7	三浦　英樹	大 12	阿部　修	大 20	佐藤　敏明	大 30
古賀　和弘	大 7	木ノ下憲二	大 13	河内　正志	大 20	田崎　隆徳	大 32
大橋　伸吉	大 8	古賀　義人	大 13	児島　孝利	大 20	池田　浩	大 33
岡田　昌也	大 8	柴垣　俊三	大 13	津志田総穂	大 20	吉良　文生	大 33
高見　末雄	大 8	橋口　英久	大 13	中倉　義介	大 20	佐藤　浩己	大 33
山本　幸雄	大 8	比嘉　賀昌	大 13	中島　正博	大 20	今石　義人	大 34
有村　良三	大 9	三浦　征洋	大 13	野瀬俊一郎	大 20	大脇　藤人	大 34
梶田　東雄	大 9	溝口　繁雄	大 13	古野　美歳	大 20	西村　章	大 34
木本　尚之	大 9	山下　隆士	大 13	山岡　広和	大 20	坊垣　巌	大 39
小西敬一郎	大 9	勝　知也	大 14	安部　正則	大 21	小野　正輝	大 40
坂本　哲男	大 9	川西　輝明	大 14	井崎　賢二	大 21	小林以久恵	大 40
染矢　剛	大 9	古賀　裕敏	大 14	甲斐　誠三	大 21	前田　尚子	大 41
髙田　利雄	大 9	堤　眞洋	大 14	河崎　照行	大 21	奥　竜一郎	大 42
橋本　彰	大 9	東方　匡輔	大 15	木村　政臣	大 21	山口　浩司	大 44
林　茂暉	大 9	小川清一郎	大 15	野中　千尋	大 21	山口　朋子	大 44
森　信孝	大 9	小野　仁彦	大 15	山崎　清太	大 21	山中　紀子	大 46
山本　治	大 9	佐々木武男	大 15	山本　良一	大 21	前田　利章	大 51
井上　巍	大 10	橋本　永爾	大 15	吉村鉄太郎	大 21	神澤　進	大 54
梅木騏八郎	大 10	東　賢次	大 15	泉　博二	大 22		
衛藤　慎吾	大 10	松本　英樹	大 15	井上　龍生	大 22	高　商	計　1 名
岡村　伸啓	大 10	村田　良一	大 15	今仁　正義	大 22	経　専	計　7 名
河江　智	大 10	山口　紘治	大 15	大石　哲史	大 22	大 1 ～ 10	計　33 名
高森　鳴實	大 10	畔津　俊郎	大 16	河野　博文	大 22	大 11 ～ 20	計　78 名
中山　克彌	大 10	加藤　剛	大 16	坂本　温	大 22	大 21 ～ 30	計　40 名
日野　武雄	大 10	杉浦　三郎	大 16	辻　次郎	大 22	大 31 ～ 40	計　10 名
広畑　孝行	大 10	赤星　学	大 17	藤野　敬三	大 22	大 41 ～ 50	計　4 名
吉田　吉則	大 10	有馬　敏則	大 17	古田　智則	大 22	大 51 ～ 60	計　2 名
安部　亮一	大 11	安藤　清	大 17	石橋　英行	大 23	大 61 ～	計　0 名
大村　龍興	大 11	宇都宮　護	大 17	神本　信正	大 23	総　計	175 名
加藤　皓以	大 11	鍵本　明	大 17	栗崎　実	大 23		
髙山　明之	大 11	清松　壮生	大 17	新西　文仁	大 23		
利根　善美	大 11	後藤　克己	大 17	進来　英治	大 23		
利光征四郎	大 11	坂本　直	大 17	平野　和彦	大 23		
長岡　泰彦	大 11	田川　幸雄	大 17	福田　誠	大 23		

会費納入ありがとうございました。令和２年度もよろしくお願いいたします。

粘着テープ・各種機能性フィルムの打抜加工・販売

KATO SEIKO

取締役会長 加 藤 皓 以（大学 11 回）

株式会社 カトー精工

<本社> 〒566-0045 大阪府摂津市南別府町8番40号
TEL.06-6349-9120(代) FAX.06-6349-9121

<国内>相模原事業所・名古屋事業所・福岡事業所・仙台営業所

<中国>天津加藤精密電子有限公司・東莞加藤精密電子有限公司・蘇州加藤精密電子有限公司

<香港>香港加藤精電公司

Fukuhara

一般区域貨物運送事業
機械器具設置業・鳶土工業

代表取締役 水 野 豊
大学26回 和田ゼミ 軟庭

Y.F 福原運輸株式会社

〒556-0022 大阪市浪速区桜川２丁目11番31号
TEL(06)6562-7377 FAX(06)6561-5693

編集後記

本号で第二十四号、令和の時代を迎え初めての発刊となりました。関西四極会報の編集に携わって４回目になりましたが、今回で編集長を退任し、次号より松尾 信氏（大学二十六回）に引き継ぐことになります。いつもご投稿いただきました皆様方に誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。今後共、同期・クラブの集まり、趣味、旅行、随筆、古希、還暦等を迎えられた方など気軽にご投稿ください。引き続き、会員各位のご支援・ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

（大学二十二回 辻 次郎）

http://www.kansai-shiwasukai.club/